

- 被ばくとは関係なく、日本人が一生の間に甲状腺がんになる確率は
 - 女性で0.78%、男性で0.28%
(Kamo et al., (2008) Jpan.J. Clin Oncol 38(8))
- 甲状腺への線量が1,000ミリシーベルトの場合、甲状腺がんになる確率の増分は
 - 女性で0.58~1.39%、男性で0.18~0.34%
(UNSCEAR2006年報告書附属書A)

1,000ミリシーベルトの甲状腺被ばくを受けた日本人が一生の間に甲状腺がんになる確率は（放射線以外の要因による発症の確率を加算）

- 女性 $0.78 + (0.58 \sim 1.39) = 1.36 \sim 2.17\%$
- 男性 $0.28 + (0.18 \sim 0.34) = 0.46 \sim 0.62\%$
(Kamo et al., (2008) Jpan.J. Clin Oncol 38(8) + UNSCEAR2006年報告書附属書A)

しかし、低線量の甲状腺被ばくにおいては、他の要因による発がんの影響で隠れてしまうため、リスクの増加を科学的に証明することは難しいとされています。

日本人が一生の間に甲状腺がんになる確率は女性で0.78%、男性で0.28%です。もし、甲状腺が1,000ミリシーベルトの被ばくをした場合、甲状腺がんになる確率が、女性で0.58~1.39%、男性で0.18~0.34%増加し、最終的には、放射線以外の要因による発症の確率を加算し、女性では1.4~2.2%、男性では0.5~0.6%ぐらいに増加します。

しかし、甲状腺への被ばく線量が小さい場合は、他の要因による発がんの影響で隠れてしまうため、リスクの増加を科学的に証明することは難しいとされています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

関連 Q&A

- ・ 1章 QA37 子どもの甲状腺がんのリスクはどれくらいですか
- ・ 6章 QA35 チェルノブイリでは子どもの甲状腺がんが多く発症した、と聞きますが、福島県は本当に大丈夫なのでしょう